



とうえい

令和5年9月8日

東栄小学校

学校だより第5号

今までの1.5倍くらいの感動を！

木の葉のそよぎに少しずつ秋を感じる頃となりました。

甲子園球場で開催された夏の全国高校野球選手権大会では、最後まであきらめずに全力でプレーする姿など、数多くの感動する場面を見た人もいないのでしょうか？校長室に置いてある小さな花びんにケイトウの花が飾られています。



実は、用務員さんが4月からさりげなく飾ってくれていて、ちょっとした心遣いへの感動を覚え、不思議に落ち着いた気分になります。

「ピンクのバラ」に始まり、「あじさい」「アルストロメリア」「チロリアンランプ」「モンブレチア」など、時期ごとに飾られたちがう花を見ると、気持ちの変化を感じるようになり、とても幸せな気持ちを感じています。花がきれいに咲いていることを当たり前だと思ってしまえば、なんの感動も起きません。でも、そこに「やさしさ」や「美しさ」を発見できたら、それだけでかけがえのない花であるかのように感じることができます。日常生活の中でも、その人の「感じ方」一つで、同じ一日が「いい日」にも「悪い日」にもなるのではないのでしょうか？例えば、日曜日の朝起きて、窓を開けたら雨が降っていたとします。「ああいやだなあ、せつかくの休日なのに・・・」あるいは「静かに過ごすには、ちょうどいい一日だな」と、どちらにも感じ取ることができます。でも、どうせだったら「いい一日」を過ごしていきたいですよね。朝起きたとき、太陽が照っており、風が吹いていることに「輝き」や「爽やかさ」を感じとることができれば、朝から気持ちのいい一日をスタートできそうです。毎朝、正門や西門付近でたくさん子どもたちがあいさつ運動を繰り返しており、元気のよい『おはようございます』に勇気づけられ、楽しい朝のひと時に感動しています。

これからは、日々の生活の中のできごとに、意識的に今までの1.5倍くらい感動し、それを声に出してみませんか？最初はわざとらしく感じても、感動グセがついてくれば、情緒はどんどん豊かになり、本当に心の底から感動できるシーンが増えてくると思います。9月29日（金）には、東栄小学校運動会が行われます。友達と力を合わせ、あきらめずに全力で競技する子どもたちの姿を見た保護者や地域の人たちは、きっと1.5倍以上の感動を覚えると思います。もちろん、先生たちも！

～ちょっといい話 その5～



「こんばんは」「いやあ、大きくなったねえ」子どもたちと地域の人たちとのふれあいがたくさん見られた『ふれあい夏まつり』。人と人とのつながりを大切にした地域に住んでいる子どもたちは、幸せです。

(校長 井田 寿)